

# 「7.11 豪雨災害」シンポジウム

## 繰り返される 土砂災害に備えて

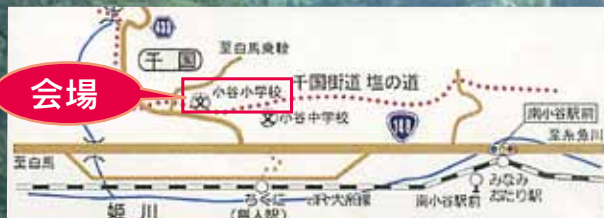
甚大な被害をもたらした平成7年7月11日の豪雨災害から20年の節目を迎えるにあたり、ともすると薄れてしまう災害の記憶を呼び覚まし、この教訓を次世代に語り継ぐとともに、今後起こりうる災害に備えて地域の防災力向上に結びつけることを目的に、シンポジウムを開催します。



小谷村神久前の崩壊地すべり



白馬村楠川護岸決壊と県道千国北城線



会場

### 「7.11 豪雨災害」20年事業小谷村シンポジウム

**入場無料 事前申し込み不要**

日程：平成27年7月12日(日) 13時30分～16時  
会場：小谷小学校体育館

#### 《第1部》振り返る

○映像 「7.11 豪雨災害を振り返る」

○体験談発表

北村 哲也 (小谷村在住)

今井 杏 (小谷村在住)

松倉 穂積 (白馬村在住)

#### 《第2部》災害に備える

○パネルディスカッション

「災害に備える」(仮称)

コーディネーター

平松 晋也 (信州大学教授)

パネラー

松本 久志 (小谷村長)

太田 武彦 (小谷村在住)

深澤 和子 (小谷村在住)

横川伊佐子 (白馬村在住)

コメンテーター

五十嵐祥二 (松本砂防事務所長)

土屋 嘉宏 (北安曇地方事務所長)

坂下 伸弘 (大町建設事務所長)

湯沢 秀人 (姫川砂防事務所長)

#### 《パネル展示等》

- ・災害パネルの展示 (被災時と復旧後の様子)
- ・土砂災害模擬体験装置の実演
- ・啓発資料の配布 (冊子・防災グッズの無料配布)



コーディネーター

平松 晋也

信州大学農学部教授

1958年生まれ。愛媛大学農学部林学科卒業。農学博士。高知大学助教授を経て、2005年より現職。1994年に「雨水の浸透・流化過程を考慮した表層崩壊発生予測手法に関する研究」で砂防学会賞を受賞。

(社)砂防学会理事、事業部会長。

土砂で埋まった姫川温泉

【主催】 小谷村、白馬村、姫川水系砂防土砂災害の教訓・継承実行委員会 (明治44年に発生した稗田山崩れから100年を機に災害を教訓として継承していく会)  
【共催】 国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所、長野県、長野県治水砂防協会  
【後援】 長野県砂防ボランティア協会、信濃川・姫川水系砂防工事促進期成同盟会、(社)日本地すべり学会中部支部、(社)斜面防災対策技術協会長野支部、長野県防災サポートアドバイザー協会、姫川建設業協会、NHK長野放送局、SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、abn長野朝日放送、信濃毎日新聞社、大系タイムス社

【お問い合わせ】 小谷村役場総務課 〒399-9494 長野県北安曇郡小谷村大字中谷丙 131

TEL 0261-82-2001 FAX 0261-82-2232 E-mail soumu@vill.otari.nagano.jp



## 平成 7 年 7 月豪雨災害の概要

降水確率 200 年超と言われた豪雨は、時間雨量約 48mm、総雨量 573mm の記録的なもので、姫川流域内各所で崩壊、地すべり、土石流が多発した。家屋や交通網等の被害は甚大であったが、砂防施設の効果や地域住民の適切な避難行動により、人的被害を最小にとどめた。



湯原沢の氾濫



塩沢の土砂除去作業

平成 7 年 7 月の梅雨前線豪雨による被害状況  
(7 月 11 日～ 22 日)

区 分		長野県
人的被害	死者・行方不明者	0 人
	負傷者	1 人
家屋被害	全壊	46 棟
	半壊	107 棟
	一部破損	20 棟
	床上浸水	131 棟
土砂災害 発生件数	床上浸水	466 棟
	土石流	74 件
	地すべり	69 件
	急傾斜地崩壊	19 件

総被害額（農林・観光業含む） 約 1,920 億円  
うち土木施設関係 約 1,180 億円

## 災害への対応



光明沢の砂防事業

小谷村の国道 148 号は土石流で埋没

淀沢の砂防事業

## 教訓を活かして

### 地域防災力の強化

地域住民主導による警戒避難体制づくり



### 砂防施設の効果

土砂災害から住民の生命・財産を守る

平成 26 年 11 月 22 日に発生した神城断層地震では、カクレ沢上流で地すべりが発生したが、流下した土砂を堰堤が捕捉し、人家や県道を災害から守った。

